

解答

一

問一 （夏は夜が、）気持ちいい（と思う。）
ウ

問二 「僕」がわざわざ夜に來た理由を理解できない気持ち。

問三 三崎に友達がいなくて本人に言う無神経なところ。

問四 方言は、地域に根付いた歴史のある立派な言語だが、若者言葉は、都会の人が勝手に言い出した新しい軽い言葉である。

問五 自分と相手は違うと決めつけ、おたがいに理解しようとせず、反発しあっている。

問六 三崎の立場になって同情し、自分から見たら憧れもあることを伝えて、なぐさめようと思っている。

問七 (1) 冷静に簡単に事実だけを伝える話し方。

問八 (2) 転校生の苦勞を冷静に見つめ、自分の運命を受け止めようとしている気持ち。

問九 ある地域を知るためには、客観的な情報だけではなく、狐がえりのような伝統行事に参加したりして実際に地域の中に入っていくことが重要だと思っているから。

問十 三崎が明日から狐がえりの練習に参加するということ。

問十一 三崎が狐がえりに参加する気になったらしいことにびっくりし、信じられないでいる。

問十二 踊りが下手だと言われるならともかく、狐がえりの踊りを気に入らないと言われたことが、「僕」にとっては考えられないことだったから。

問十三 三崎は狐がえりに関心のうすい転校生だったが、今は三崎のほうが積極的に取り組み、「僕」は三崎に指導される立場になっている。

問十四 伝統的な狐がえりの踊りにステップを加え、リズム感のある現代風な軽快なものに変えたことが評価され、新聞に載るほど盛り上がり、そのことを通して三崎が地元にとけ込んでいったこと。

二

- | | | | | | | | |
|----------|--------|--------|-------|--------|------|------|-------|
| ① 青果 | ② 護岸 | ③ 緑化 | ④ 親交 | ⑤ 汽笛 | ⑥ 徒党 | ⑦ 刊行 | ⑧ 売買 |
| ⑨ 取捨 | ⑩ 再〔び〕 | ⑪ 宇宙 | ⑫ 対処 | ⑬ 包〔み〕 | ⑭ 両輪 | ⑮ 旗印 | ⑯ せっぱ |
| ⑰ ちぢ〔める〕 | ⑱ さくらめ | ⑲ せっぱん | ⑳ こおう | | | | |

解説

一

問六 三崎は田舎の子は「言葉を選ばず作業を知らない」「ほんと単純だね」と決めつけ、「僕」は、都会の人間を「勝手に言葉を生み出しよる」「だから都会のやつは、ってしょっちゅう心の中で叫んでた」とあります。お互いを違う世界の人間と決めつけ、反発しあっている様子がわかります。

問九 「僕たちが都会を誤解しているように、三崎もこの地を本当には知らない。・・・実際にそこで暮らさないと、その中に入っていないと、確かなことはわからない。」とあります。

問十四 狐がえりを「狐フェスティバル」と外来語であらわすことで、伝統の踊りがリズムカルでポップなダンスに生まれ変わり、それが受け入れられ、伝統行事に新風を吹き込んだと同時に、転校生だった三崎が地元の人に受け入れられていったと考えることができます。